

2006ストックホルム青少年水大賞

日本水大賞委員会

京都桂高校が「水のノーベル賞」青少年部門 準グランプリを受賞！

今年の日本水大賞（日本水大賞委員会主催、名誉総裁：秋篠宮殿下）で日本ストックホルム青少年水大賞 2006 を受賞した京都府立桂高等学校草花クラブの代表の杉本直美さん（3年生）、古庄里美さん（3年生）と西野冴さん（2年生）が、8月19日よりストックホルムで開催された世界水週間中に行われた水のノーベル賞と言われる「ストックホルム水大賞」の青少年部門の世界大会、「ストックホルム青少年水大賞 (Stockholm Junior Water Prize 2006)」において、見事、準グランプリを受賞しました。今年の大会には各国の大会に優勝した 29 カ国の代表 52 人が参加し、ストックホルム市コンベンションホールでポスターセッションによるコンペが行われました。8月22日19時（現地時間）から行われた授賞式において審査結果が発表され、中国代表がグランプリ、日本代表とスリランカ代表が準グランプリとなりました。名誉総裁のスウェーデン王国皇太子ビクトリア王女より桂高校の三人それぞれに準グランプリの賞状が授与されました。



審査員との応答



日本代表のポスター展示



スウェーデン王国皇太子ビクトリア王女から
準グランプリを授与



受賞した日本代表桂高校の生徒と引率の先生

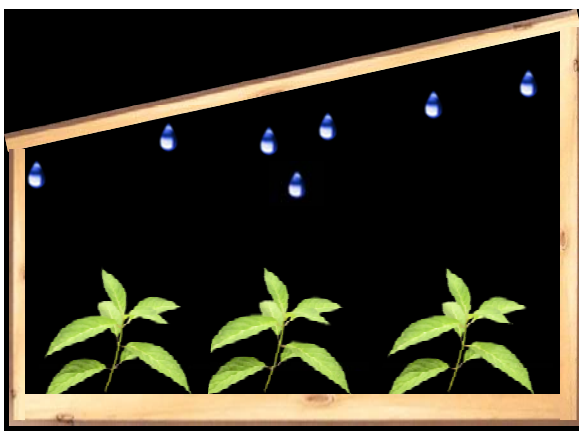
「小さな“Case”の大きな可能性」－究極の水循環で90億人の食を守る－

タイトル「A Tiny Case with Big Possibilities:」

邦題 「小さな“Case”の大きな可能性」－究極の水循環で90億人の食を守る－

桂高校草花クラブの発表は先輩から受け継いだ研究を日本はもとより世界で活用できるよう更に改良、発展させたものです。

草花クラブは世界最小のアジサイ品種を作出して農林水産省に品種登録するとともに、苗を障害者施設と共同栽培・出荷する「学・福・産」連携システムを構築しました。そして障害を持つ人でも簡単にできる挿し木苗栽培の方法として、19世紀に世界でプラントハンター達が長期間、船舶での植物輸送器として用いていた「Wardian Case」を、工夫を重ねて栽培容器に改良し、少量の水を用い密封した状態で長期間栽培を続けることに成功しました。その後、この桂高校版 Wardian Case を「Katsura Nursery Case : KNC」と命名し、水稲、麦などを用いた超節水型栽培法を開発しました。この方法は、苗生産時における節水率が93%にも達します。その上、このKNCは種子消毒や浸種が不要となり世界の水稲などの穀物生産に活用できることが予測され、大規模な実用化が期待されています。今後、水不足で困っている世界の多くの地域で食糧生産にも役立つように、更なる研究の発展が望まれます。



Katsura Nursery Case